



昭和34年4月18日制定

あさひ

学校便り 7月号

平成26年6月30日

横浜市立旭小学校

二人の考え

校長 伊藤 博夫

蒸し暑い季節になりました。水泳学習も梅雨の晴れ間をぬって少しですが実施できています。

6月上旬には6年生と一緒に妙高へ行ってきました。4泊5日という長い修学旅行でしたが、さすが6年生で秩序ある行動をとることができ感心しました。この素晴らしい体験を今後の学校生活に発揮してくれることを大いに願っています。きっと下級生の良いお手本となってくれることでしょう。

さて、先日雑誌を読んでいたら、次のような話が出ていました。

『ある人が、石材を切り出している二人の人に、「何をしているのですか。」と尋ねたそうです。すると、一人は「このいまましい石を切っているところさ。」と答えたそうです。そして、もう一人の人は「大きなお寺を建てる仕事をしているんだよ。」と答えたそうです。』

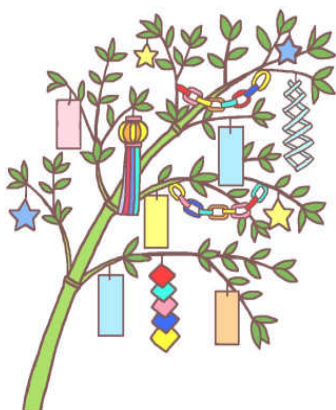
この話から、二人の人が石を切り出すという全く同じ仕事をしているのに、仕事に対する気持ちの持ち方が大変違うことに気付かれたことでしょうか。「このいまましい石……」と思いながら仕事をしている人にとっては、石切の仕事はとても嫌な、つらい仕事でしょうし、ひょっとしたら恐らく仕事もいい加減になり、疲れの度合いも大きいのではないかと思います。一方、「大きなお寺を建てる仕事をしているんだ。」という人にとっては、石を次々に積み上げて完成したお寺を心の中に描きながら「やってよかった。」という満足感や「私はこんな立派な仕事をしているのだ。」という誇りを持つことができるのではないのでしょうか。

児童の生活の場面を考えてみますと、委員会活動や係の仕事などで思い当たる場面が数多くあると思います。例えば、飼育委員会の仕事では糞の後始末が大変です。しかし、兎が喜んで生き生きとして、私たちになついてくれると思うことによって仕事の仕方が違ってくると思います。また、掃除当番のときも、掃除をすることによって旭小学校をピカピカにしているんだ、そして、みんなが生活しやすいようにしているのだと思うことにより、短時間にきれいにすることができるのではないのでしょうか。

この二人の石工のように、一つの行為を否定的に考える肯定的に考えるかによって、充実した楽しいものともなり、苦痛に満ちた不満なものともなるのではないのでしょうか。

私たち旭小学校の教職員は、児童に自分の考え方や生き方をどのように確立させるか、そして、児童自身のやる気や根気をどう育てるかを模索し、児童自身が自己の成長を見つめ、確かめながら育つように努力していきたいと考えております。

20日ほどで、長期休業に入ります。児童が、安全で楽しい休暇がおくれますようご家庭でのご配慮をお願い申し上げます。また、地域の皆様には、児童がお世話になることが多々あるかと思いますが、宜しく願い申し上げます。



7月の取組目標

生活目標	暑さに負けずに元気に過ごそう
保健目標	暑さに負けずに元気に過ごそう
清掃目標	傘立て、くつばこをきれいにしよう
給食目標	好き嫌いなく食べよう